

Project manager

(2020 年度採択)

松浦 善治

大阪大学 感染症総合教育研究拠点 / 微生物病研究所 特任教授



代表機関

大阪大学

研究開発機関

大阪大学、(株)エビデント、九州大学、京都大学、群馬大学、慶應義塾大学、千葉大学、東京大学、徳島大学、長崎大学、名古屋大学、北海道大学、山梨大学、東京科学大学、理化学研究所

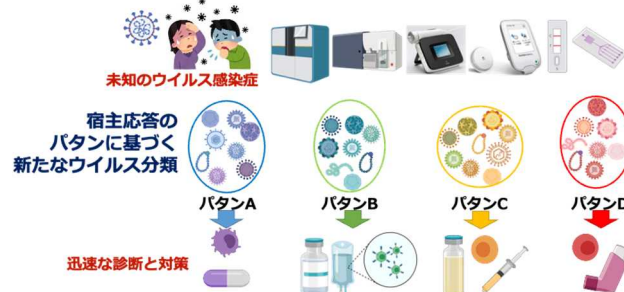
プロジェクト概要

ウイルスと人体の相互作用ネットワークを包括的に理解し、そのパターンを分類整理することにより、未知のウイルス感染症に対しても有効な診断・予防・治療法を先制的に準備します。それにより、2050年には、ウイルス感染症の脅威から解放された社会の実現を目指します。

2030年までのマイルストーン

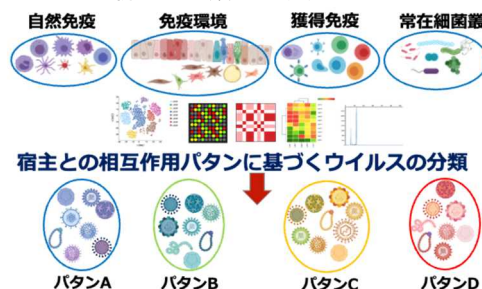
未知のウイルスが出現しても、感染早期に適切な治療を開始することで、感染症の発症を未然に防ぎます。具体的には、ウイルス感染による生体反応を基に数理モデルを作成し、ウイルスを新たに分類します。さらに、ウイルス感染後の生体反応を早期に検出するバイオマーカーを同定し、各分類のウイルスに最適な診断、治療、予防法を開発します。

未知のウイルスにも有効な診断・治療法の開発



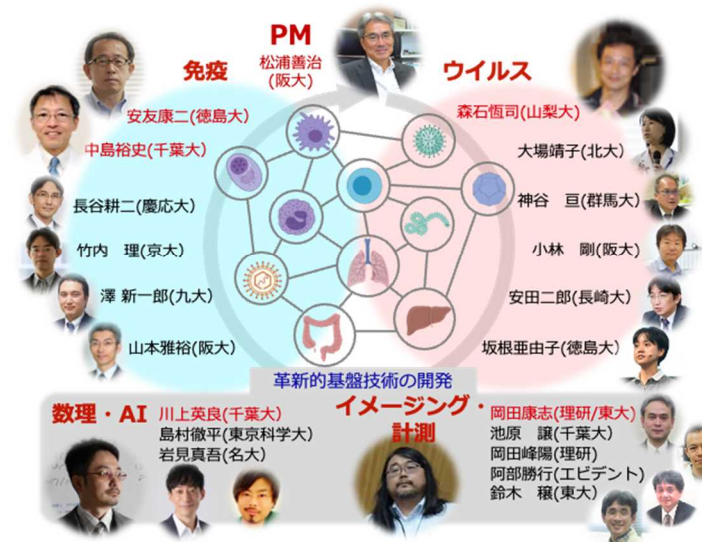
2025年までのマイルストーン

ウイルス感染の早期診断法と有効な予防・治療法の開発に向け、ウイルスを生体反応により新しく分類します。



研究開発体制(2025 年 4 月時点)

研究開発プロジェクト推進体制



実験を担当する研究者と数理科学の研究者が事前によく相談し、数理解析に必要なデータを集める

